

◎ミッション2030◎ ニュースレター VOL.4

[新しい協働]フォーラム

第4回「主を賛美して共につくる—『教会の行事』について考える—」

イグナチオ教会では2017年度から「ミッション2030」に取り組み、「祈りを深める」「福音を伝える」「共同体を生きる」という各柱で、順次ワークショップを行ってきました。

今年度は「新しい協働」をテーマに、司祭、修道者、信徒の区別なく連携していくことを目指して、教会活動を広く見直すためのフォーラムを全6回の予定で開催しています。

第4回目のフォーラムは2021年12月12日(日)に行われ、教会行事に携わる10のグループが活動内容、課題、目標などを報告し、発表後にはオンライン参加の皆さまとともに分かち合いが行われました。

英神父さまのお話

行事やイベントは「共同体のお祝い」であり、共同体の一致と喜びを表すものです。

そしてどのような行事やイベントにも2つの側面があります。ともに祈ることと、ともに食事をすることです。例えば結婚式も、前半が祈りで、後半は会食というプログラムになるのが通例でしょう。

使徒言行録2章43節～47節に、聖霊降臨の後の初代教会の様子が次のように書かれています。ミサ聖祭の後、喜びと真心をもって一緒に食事をした、と。初代教会では、ミサと、ミサの後の持ち寄りの食事がセットで、食事のことは「アガペー」と呼んでいました。お祈りして一緒に食事をする、これが教会活動の原点なのです。また聖書には、ものの分かち合いも行われていたと書かれています。それがバザーの原点です。バザーも分かち合いの原則から来ているわけです。

当教会ではたくさんの行事が盛大に行われ、多くの方が参加されます。コロナ以前は、さまざまな講演会も行われていました。そうしたイベント力はこの教会の大きな

強みです。

一方で弱点もあります。しばしばいわれることですが、教会の規模が大きいこともあり、人となりのつながりが弱いということです。ですから、行事やイベントを企画・開催する際には、単発的なものに終わらせるのではなく、人と人がつながる場にすること、共同体的な力を育む機会にしていけることが重要です。

そのためには、ミッション2030の三つ目の柱で一昨年のテーマでもあった「共同体を生きる」。そして、昨年と今年のテーマである「協働」。この2点を意識しながら、内容や方法を考えていくようにすると良いと思います。

イエズス会では現在、「UAPs」(イエズス会の使徒職全体の方向づけ)に取り組んでいますが、そのなかには「エコロジー的な配慮に取り組む」という項目があります。これは地球全体で力を合わせて取り組まなければいけない課題でもあります。教会内の活動、行事においても、今後はエコロジーを心がけていくようにしたいものです。

行事関連グループの報告

◆配信チーム

毎週の主日ミサ、黙想会や教会祭など主要行事のインターネット配信を担当している。主日ミサの配信は、日本語、英語、スペイン語、ベトナム語、4つの言語で行われるため、各言語圏でチームを作り、分担して字幕作りなどを行っている。昨年10月の教会祭の国際ミサでは、はじめて全チームで協力して作業を行い、良い経験を得ることができた。

◆料理グループ

教会の依頼を受け、新年会、長寿の集いをはじめとする教会行事のための料理作りを担当している。皆で主の食卓を囲み、力を得て、福音宣教に出かけていくのは重要なことと意識して奉仕活動を行っている。コロナ禍で大皿料理を提供することができないため、持ち帰

◆次回予告◆

第5回「新しい協働フォーラム」は2022年2月6日(日)13時～15時の予定です。テーマは【隣人となる恵み—国際共同体的な分かち合い—】です。詳細はホームページ、ポスター等をご覧ください。

り可能な弁当などを検討中。約2年前から社会的な活動として、家に居場所がなく夜の街を歩いている女子中高生に温かいスープをふるまう活動を有志で始めた（現在はコロナ禍により休止中）。

◆メリエンダ

外国語圏の信徒の方々からも活動再開の要望が多く、具体的な方法をメンバーと検討中である。まずコーヒーやお茶など飲み物の提供を再開し、感染状況がもう少し落ち着いてきたら、パンやおにぎりなど食べ物の提供を再開したい。活動時間は9時半～14時半頃。人同士が向かい合わせにならないように机を配置し、飲食時間は一人30分以内にするなどの方法を考えている。皆さまのお知恵やアイデアもぜひ頂戴したい。

◆クリーンアップグループ

祈りと集いの場である教会を信徒の手で綺麗に保つという目的で、主聖堂、クリプタ、ザビエル聖堂、信徒会館、トイレ、屋外などの清掃を行っている。活動の柱の一つである「献堂記念教会大掃除」には毎年100名以上の方々が参加し、普段行き届かない場所の清掃をしてくださっている。コロナ禍に入り、少人数での「小さなお掃除会」を始めた。今後は、外国語圏の方々との協働もすすめていきたい。

◆活け花グループ

20代から90代まで、幅広い世代の14名で活動中。典礼や行事にあった花を活け、神さまに捧げている。コロナ禍に入って活動がかなり制限された時期もあったが、LINEグループを作って情報を共有しあい、メンバー同士のつながりを大切にしている。

◆音響・照明

大きな典礼や行事の際の音響機器の設置や、設備の管理を担当している。専門知識と技術を要する活動ということもあり、人材を求めている。信徒の皆さんには、マイクを使ったら消毒して元の場所に戻すといった小さなことにぜひ協力してほしい。

◆E.W.G.

「E. W. G.」とはイベント・ワーキング・グループ (Event Working Group) の略。「神さまが望まれる共同体の行事」を目指し、行事の立案、企画、運営、演出、実施、コーディネートまで全般を担っている。本日参加のほとんどのグループと協働しており、さらに経験を持った信徒の方々、新しい方々との連携、協働も図り、つながりを深めていきたいと考えている。

◆写真チーム

以前は典礼の撮影が中心だったが、昨年から広報関係のグループとの連携を強めて SNS やホームページへの写真提供を始め、日常的な風景を撮る機会が増えてきた。美術部と協力してカレンダーの作成を行ったり、バザーでポストカードの頒布なども行っている。

◆マルタとマリアの会

通称「マルマリ」。洗礼式や堅信式の準備と当日の受付、灰の水曜日の灰作り、受難の主日のための枝切りなど、典礼に関わる行事を担当。皆さんが「これは誰がやっているの？」と思われることの多くに携わっている。

*前述のグループ以外に「美術部」が行事関連グループです。美術部の活動については過去のフォーラムで報告済みですので、ここでは省略いたします。

信徒の分かち合いから

各報告の後、ヨセフホールに来られた方、インターネットで参加された方々が分かち合いを行いました。抜粋してご紹介します。

「すべての教会活動の中心は祈りである。祈りを中心として、生活へとつながる豊かな活動になってほしい」

「インターネット配信は今後も続けてほしい。パソコンやスマホが不得手な方のための講座などがあるとよい」

「人ととのつながりのなかに喜びがある。こうして分かち合いができることも喜びである」

「奉仕活動に関心はあっても敷居が高かったが、大掃除や枝切りなど気軽に参加できる活動から始めてみてはとアドバイスを頂けた」

「各活動グループの概要を教会報に掲載してはどうか。専門知識を持つ信徒の発掘につながるだろう」

英神父さまのまとめ

活動グループは“生き物”のようなものといえるでしょう。生まれたばかりのときは活発で元気がい。そのうち落ち着いて、メンバーも固定化してくる。今、多くのグループは再び活性化するために、新しい人を迎え入れる時期に来ているように感じます。相性が合わない人が入ってきたり、混乱が起きるかもしれません。しかしそうしたマイナス面を恐れず、発展のチャンスと捉えてみてください。

来年度はメンバー募集の場を作り、2～3年かけて活動グループを良い形で変化させ、発展させることに取り組んでいけると良いでしょう。